

# 閉会の辞

---

ウィリアム(ビル)B. ボイド  
RI会長エレクト

今から4カ月後には新たなロータリー年度が始まり、皆さんと私はいよいよ新しいロータリーの職に就くこととなります。

私たち皆にとって、7月からの1年間は、非常に大きな責任と多くの素晴らしい機会が伴う年となるでしょう。1年はあっという間に過ぎてしまいます。皆さんが今予想されるよりも早く、その1年を振り返る時がやって来るでしょう。その時、皆さんは次のように自問されることと思います。「私は何を成し遂げただろうか」「できることをすべてやり尽くしたのだろうか」「私の努力によって、クラブや地区は前よりも良くなったのだろうか」「地区内の会員がロータリアンとして成長するのを助けることができたのだろうか」「ロータリアンとして、私は、クラブや地域社会を導くことができたのだろうか」と。

7月からの1年間、ロータリーを通じてより良い未来を築いていくために、私と共に「率先しよう」を実践してくださるよう、皆さんにお願いしたいと思います。言葉ではなく、行動によって人々を導くことによって、真のロータリーの指導力というものを世に示してください。

ロータリーの指導者として私から皆さんにお願いしたいことは、新会員となる見込みのある人々を惹きつけ、現会員を末永くとどまらせることのできるよう、クラブの充実に向けて率先していただくことです。クラブが充実すれば、皆さんがロータリアンとして迎え入れたいと思うような会員を惹きつける可能性は一段と高まるはずです。

仕事を行う上で、また、地域社会で人と接するありとあらゆる機会に、「率先しよう」を実践してください。地域社会の人々の目に映るロータリアンが、誰しも、誠実かつ寛大で、礼儀正しく、品格を備えた人物であるように、常に心を配りましょう。

また、ロータリー財団への支援において自ら模範を示すことによって「率先しよう」を実践してください。財団がなかったら、現在私たちの知るロータリーは決して存在し得なかったでしょう。財団の力を維持することができるかどうかは、私たち、すなわちすべてのロータリアンにかかっています。地区ガバナーが財団に惜しみない寄付をしていることを地区内のロータリアンが知れば、彼らもまた、同じことをしてくださるでしょう。

また、このメッセージをどうか皆さんのクラブにも伝えてください。皆さんに「率先しよう」と呼びかける時、私は、地域社会のニーズを見据え、それに取り組むために率先して行動されるようお願いしているのです。より広い国際的な視野に立ち、自ら努力し、人々に模範を示すことを通じて、より安全、より健康的、より明るい世界へと率先していただけることを願っています。

ロータリーとは、世界に対してより良いやり方を示していくことです。自分が話すよりもまず先に人の話を聞き、行動を起こす前にまず考え、利益や利便性よりも高潔さや無私無欲を重んじる人々、それが私たちであると地域社会に約束するのが、ロータリーなのです。

ロータリーにおいて、指導者(リーダー)であることは、他人に意思を押し付けることを意味しません。それは、皆さんがクラブを側で支えることであり、クラブが成功すれば共に喜びを分かち合い、クラブが過ちを犯せばそこから学ぶよう力を貸すことです。それは、皆さんが人々の声に耳を傾け、広い視野で物事を捉え、より良い方向へと変化していけるよう人々を導くことを意味します。

また、人々の真のニーズを捉える力はロータリアンとしての極めて重要な資質であるということ、クラブに再認識してもらわなければなりません。

この教訓は、数年前に私が参加したクラブ・プロジェクトから学んだものです。外国の非識字問題ばかりに熱心に取り組んでいた私たちのクラブは、今度は自分たちの地元社会で非識字プロジェクトを実施すべきではないかと感じたのです。そこで、低所得地区にある学校を特定し、校長先生に私たちの計画を持ちかけてみました。

本やコンピューターの寄贈、子供たちに本を読んで聞かせたり、読み方を教えるためのボランティアの手配……。私たちはすべてを入念に計画し、提案したのです。ところが、校長先生は私たちの話を丁寧に聞いた後、次のように言いました。お心には感謝しますが、学校に必要なのは、そういったものではありません。教師は皆優秀で、子供たちにしっかりと教えています、と。

そして、校長先生は、学校が本当に必要としているものを教えてくれました。学校は、治安の悪い限界にあるため、毎週のように泥棒に遭っていると言うのです。教材は盗まれ、教室や廊下も荒されるため、教師たちは子供に教材を渡したり、適切な学習環境を整えてあげることができませんでした。さらに、学校の運営委員会には会計士やビジネスに通じた人がいなかったため、学校運営の財務にも問題があり、予算編成や計画を手伝ってくれる人を必要としていたのです。

そこで私たちは、退職した大工であるクラブ会員を学校へ派遣しました。彼は警備の問題を調査し、わずか1日のうちに、200ニュージーランド・ドル(およそ米貨138ドル)ほどを自己負担して問題を解決することができました。事業経営から退職したもう一人のクラブ会員は、学校の運営委員会に毎回出席し、学校の管理運営がスムーズに行くよう援助しました。こうして、この学校ではあらゆる面で改善が見られたのです。

もし、私たちがただ本やコンピューターを寄贈しただけだったなら、これらの品は1週間うちに盗まれてしまっていたでしょう。しかし、学校のニーズに私たちが耳を傾けたことによって、子供や教師たちの生活に、後々まで残る成果をもたらすことができたのです。これこそが、「耳を傾ける」ことを私が強調する理由です。支援してあげたいと望む人々の声に耳を傾け、真のニーズを見定めることが大切なのです。私たちが持ちうる力を最大限に生かす方法とは、まさにこれなのです。

ロータリアンとして、私たちは、政府や主な資金支援団体といった他団体との協同を通じて力を拡大することによって、物事を大きく考える必要があります。莫大なニーズを抱えた国々に横行する官僚主義や腐敗政治といった障壁も、一致団結すれば、乗り越えることができるでしょう。私たちは多くの人々と共に、多くの人々を動かすことができるのです。

また、時には小さく考えることも必要です。一人の人間の生活を明るくすることができたなら、それだけで、私たちは素晴らしいことを成し遂げたことになるのです。

さらには、慎重に考える必要もあります。ロータリーの資金には限りがあり、大変貴重なものですが、その需要は無限に存在しています。それを最大限に生かすことができ、その影響が末永く続くところに絞って、資金を費やすべきではないかと思えます。

また、ロータリアンとして私たちがいかに振舞うべきかを常に考える必要があることも、どうか忘れないでください。私たちの活動が可能となるのも、ロータリーが1世紀にわたってゆっくりと着実に築いてきた信頼があればこそと言えます。シニア・リーダーのみならず、ロータリーのピンを身につける誰もが、公共でのロータリーの「顔」となるのです。このことを、職場でも、地域社会でも、クラブでも、しっかりと胸に刻んでおきましょう。良い行いも悪い行いも、私たちの行うことはすべて、あらゆるロータリアンに投影されます。ですから、良いことだけを行い、それを楽しもうではありませんか。

皆さんが就任年度に良い仕事を残されたなら、2006年の地区ガバナーが誰だったかを人々が忘れ去った後にも、皆さんの仕事の影響は人々の生活の中に息づいていることでしょう。ある村に清浄水がもたらされたなら、失業者が技能を身につけて仕事を見つけることができたなら、クラブが以前よりも充実し、活発になったなら、地域社会がより住みやすい場所になったなら……。人々の心に末永く残り続けていくのは、この

ような変化なのです。

地区ガバナーの役職はわずか1年で終わりますが、皆さんの仕事は何世代にも渡って恩恵をもたらしていくのです。率先しよう」を実践し、親睦と奉仕に満ちた素晴らしい1年としようではありませんか。

ご清聴ありがとうございました。